夢みるこども基金だより



イメージキャラクター
はミング・はっクン

発行：夢みるこども基金事務局
〒814-0104 福岡市城南区別府 1-21-6 アストア別府 801 号
TEL.092-400-0005 FAX.092-400-0339
E-mail jimukyoku@yumemirukodomo.jp
HP https://www.yumemirukodomo.jp/

インスタ
QR コード▶

@HAKKUN_0329

夢みるこども基金 検索

NO.31
2026年（令和8年）10月1日第31号

第32回イベント 化石発掘に挑戦









▲化石発掘ワークショップを開催

「化石だ！」「出ました！」「わぁ、すごい！」―無表情な石の塊から古代の生き物の化石が現われるたび、こどもたちから大きな歓声があがりました。

全国の歯科医院のご協力をいただき、開催されてきた「夢みるこどもキャンペーン」は今回32回を迎え、全国から作文、絵のコンクールで選ばれたこどもたちが集い「森の探検と化石の秘密を調べよう」をテーマに3月21、22日に佐賀市、福岡市をメイン会場にイベントが開かれました。

森の中でいろんな遊びをしたい、昔の生き物の化石探しをしたい、というこどもたちの声を受け、イベント初日は佐賀市三瀬村の「夢みるこども基金の森」で一日、森の体験をしました。炭釜など森の暮らしの跡や枯葉が土、堆肥になってゆく過程など森のしくみを学び、木の枝に渡したハンモック、ブランコや木登り、秘密基地づくりなど森の遊びを満喫しました。都会暮らしで日ごろ自然林の中で遊んだことがない子がほとんどという中で、穏やかな春の日差しに彩られた、温もりを感じられる落葉の絨毯など、造られた公園などにはない自然の恵みを五感で感じ、これ以上ない笑顔がはじけていました。

イベント二日目は福岡市の西南学院大学・西南コミュニティセンターで九州大学地学研究部のご指導の下「化石発掘ワークショップ」で化石探しに挑戦しました。トントン、トントンと会場にはハンマーの音が響き、「こども考古学者」らは貴重な化石を傷つけないよう千枚通しで慎重に化石の原石を割り、石の表面に浮かび上がる古代の虫や葉などを長い眠りから呼び覚ましてゆきました。石の塊から「お宝」を掘り出したこどもたちは、数万年前の生物の名残が時空を超えて現代に現れた不思議さに驚き、いつか恐竜の化石を掘ってみたい、などと夢をふくらませていました。

運営スタッフには新たに今年も基金の「卒業生」を迎えることが出来ました。2018年に「聴導犬」をテーマにした作文で最優秀作品に選ばれ、イベントに参加した伊賀﨑望さん（福岡県立光陵高等学校3年）にはご兄妹でこどもたちのお世話をしていただきました。あの時の喜びをこの子たちにも、と協力いただいた「先輩」もこどもたちのはじける笑顔に胸を熱くしていました。

阪神淡路大震災で被災し親を亡くされたこどもたちを励まそうと始まり、様々な形で未来を担うこどもたちに夢を届け、希望の種を蒔き続けて30余年。「夢のバトン」は新たな世代へしっかりと受け継がれています。

（中原　淳一）

「基金の森」で自然体験活動を実施

イベント初日は、2年ぶりに佐賀市三瀬村の「夢みるこども基金の森」にて開催しました。全国から集まった小・中学生20名と保護者スタッフを含む総勢60名が参加しました。

今年は、2018年のイベントに参加した基金OGの伊賀﨑望さん（高校3年）と、兄の伊賀﨑淳さん（大学2年）にスタッフとして参加していただきました。お二人には、自身の夢への挑戦の経過を、当時の自分と同じように夢を描くこどもたちへ語っていただきました。数年前、自分の夢を作文にして応募してくれた伊賀﨑さんが、今は自らの力でその夢に向かって歩み始めています。その成長した姿を目の当たりにし、スタッフ一同、胸が熱くなる思いでした。

基金の森での活動は、NPO法人ビックリーフのご協力のもと、丸太切り体験や森の探検を実施しました。特に大好評だったのが、森の一角に洗濯バサミやクリップなど〝人が作ったもの〟をそっと忍ばせ、それを探し出すゲームです。こどもたちは夢中になって挑戦しましたが、年齢を問わず、全問正解した人はいませんでした。自然の中に紛れ込んだ人工物を見つけることの難しさを実感しました。


▲巣箱設置

また、こどもの意見をもとに「宝探しゲーム」も行われました。スタッフから、ヒントが出されると、こどもたちは勢いよく宝探しに取りかかりました。運良く、土に埋められたカプセルを見つけたこどもは、「あったー」と大歓声を上げて喜んでいました。


▲丸太切り体験

そのほか、森の中でお弁当やおやつを味わったり、木登りや秘密基地づくり、木のブランコやハンモック体験など、普段なかなかできない自然遊びを思いきり楽しみ、こどもたちは終始いきいきとした表情を見せていました。

夕方には福岡市内へ戻り、「ハーバーハウスバーベキューガーデン」（福岡市西区）にてバーベキューを実施しました。すっかり仲良くなったこどもたちは、美味しい海鮮やお肉を頬張りながら楽しいひとときを過ごし、初日の活動を締めくくりました。


▲秘密基地づくりの木材を運ぶこどもたち


▲森のブランコ


▲ハンモック体験

化石について学ぶ

2日目は、西南学院大学コミュニティセンター（福岡市早良区）にて開催。今回のメインテーマ「化石の秘密を調べよう」は、作文の部・優秀賞の照井優人さんの作品をもとに、九州大学地学研究部の皆さんのご協力のもと実施されました。



▲葉脈まで鮮明に残る葉の化石


▲ハンマーを使って化石を発掘



九州大学4年の幸地秀さんと2年の川上泰正さんが中心となり、スライドショーを用いて化石の成り立ちや特徴を解説。机に並べられた本物の化石（三葉虫、腕足動物、ビカリア、アンモナイト）に、こどもたちは興味津々で、慎重に手に取る姿が印象的でした。

続いて、実際に化石を発掘する体験も行われ、慣れない手つきながらも化石が見つかるたびに歓声が上がりました。部長の真面太貴さん（2年）は「休みのたびに部員同士で化石発掘に行っている。今回の活動がこどもたちの夢につながることが嬉しい」と話してくださいました。

午後からは、第32回「わたしのかなえたい夢」作文・絵コンクールの表彰式を開催しました。司会は理事長の中原淳一氏。開会挨拶では「AIの進化により素晴らしい作品が簡単に作れる時代になった。しかし、こどもたちが純粋な夢を込めて描いた作品には、どんなAIも敵わない」と述べました。


▲化石について説明を受けるこどもたち

審査講評は、作文の部を植木とみ子氏、絵の部を瀧井利子氏が担当。表彰式では賞状と楯を受け取ったこどもたちの嬉しそうな表情に、会場から温かい拍手が送られました。

最優秀作品紹介では、作文の部・岩坂新史さん、絵の部・下藤将太さんが、自身の夢とともに作品を披露しました。作文の部・岩坂さんは、滑脳症（かつのうしょう）という病を抱える妹・晏寿さんを「医者になって救いたい」という、まっすぐで優しい思いを込めた作文を朗読してくれました。朗読の際には、妹の晏寿さんと姉の心尽さんもステージに登壇。3人で並ぶ姿は、会場にいた人たちの胸に深く響きました。絵の部・下藤さんは、世界各地で起こる紛争に胸を痛め、平和な世の中になって欲しいという願いを込めた絵を披露してくれました。


▲絵を披露する下藤さん



▲作文を朗読する岩坂新史さん。妹の晏寿さんと姉の心尽さんとともに登壇

その後は、こどもたち待望の「パフォーマンスショー」。ジャグリング世界大会2位、世界13カ国で公演実績を持つパフォーマー・YAYAさんが、基金のための特別ショーを披露してくださいました。こどもたち参加型のパントマイムや世界レベルのジャグリングに会場は大盛り上がり。身体を使って表現する楽しさをこどもたちは存分に体感したようでした。YAYAさんも「こどもの夢を応援する機会に参加できて嬉しい」と語ってくださり、多方面で活躍する大人たちがこどもたちのために力を貸してくださる姿に、改めて感謝の気持ちが込み上げました。

閉会式では、夢みるこども基金OBOG会会長・三原怜美理事が挨拶し、「今回いただいたご縁を大切に、これからも皆さまと歩んでいければと思います」と述べました。最後に全員で基金のテーマソング「ドント・ストップ・マイドリーム」を歌い、第32回イベントは幕を閉じました。



▲パフォーマーのYAYAさん



▲こどもたちはパントマイムに挑戦

こども会議

2025年12月7日(日)、ふくふくプラザ(福岡市中央区)602研修室にて、第32回「こども会議」が開催されました。

この会議は、「わたしのかなえたい夢」をテーマにした作文・絵コンクールの上位入賞者に、春休みに実施するイベントの内容を話し合ってもらう場です。今年は、全国から寄せられた1,915点の応募作品の中から選ばれた10名の小・中学生が参加し、対面とオンラインを併用して夢や意見を語り合いました。



▲ハイブリッド形式で開催

こどもたちからは、「森で秘密基地を作りたい」「宝探しがしたい」「自然の中で体を動かしたい」「動物と触れ合いたい」「マジックを見たり、自分でもやってみたい」など、夢あふれるアイデアが次々と飛び出しました。

こうしたこどもたちの声を受け、春休みのイベントでは、基金の森での「秘密基地作り」や「宝探し」に加え、作文の部・優秀賞を受賞した照井優人さんの作品をもとに、「化石の発掘体験」を行うことが決まりました。



▲対面で参加してくれたこどもたち

イメージキャラクター
はミング・はっクン

歯医者さんありがとう

参加したこどもたちからのメッセージ

（※学年はイベント参加当時）

名前	学年	県名	メッセージ
岩坂　新史	(小2)	和歌山	ききんのもりでひみつきちを作りました。みんなで協力して木をあつめて楽しかったです。たからさがしも楽しかったです。またあそびたいです。ありがとうございました。
岩坂　心尽	(小6)	和歌山	基金の森で木や草を使い、みんなで協力し、素敵な秘密基地を作りました。宝さがしでも色々な木の種類のことを話しました。きれいな水の澄んだ小川や小さい虫たちもいて、自然をたくさん感じることができました。こんなにたくさんの経験をさせていただけたのも歯医者さんのおかげです。ありがとうございました。
土見　奏良	(小5)	熊本	歯医者さんへ。今年も参加させて頂き、ありがとうございました。基金の森で木のブランコや木登り、宝探しゲーム、そして丸太切りをしました。自然を感じる事ができてとても気持ち良かったです。これからも自分の夢をかなえるために、何事にもトライし、努力をしていこうと思います。ありがとうございました。
照井　優人	(中2)	福岡	僕の夢は古生物学者です。今回のイベントでは「九州大学地学研究部と体験する化石発掘ワークショップ」を開催していただき、ありがとうございました。古生物学者になれるように頑張ります。
照井　圭吾	(小4)	福岡	森でたくさん遊んで自然を体感することができました。ふだんはできないきちょうな体験をすることができて、ありがとうございました。
田中　結人	(小4)	兵庫	金歯、銀歯をリサイクルした大事なお金でイベントなどをひらいていただき、ありがとうございます。歯医者さんのおかげで楽しいおもいでができました。心から感しゃしています。
田中　響人	(小6)	兵庫	歯医者さんへ。いつも虫歯を治したり歯のそうじなどをしてくれてありがとうございます。ぼくは歯の矯正器具をつけています。器具のつけかえやアドバイスなど、いつもお世話になっています。また、金歯や銀歯をリサイクルして基金を支えてくださって、ありがとうございます。これからもお仕事がんばってください！
三原　一眞	(小2)	福岡	いつもみんなの虫歯をなおしてくれて、本当にありがとうございます。これからもお仕事がんばってください。
江藤　晴琉	(小6)	大分	毎年、金歯や銀歯を基金に寄付してくださり、本当にありがとうございます。今回は基金の森へ行き、木に登ったり、木と竹を切ったり、ハンモックに乗ったりしました。また、森の自然や新鮮な空気を味わうことができました。ふだんこういう経験はしないから、とっても良い経験になりました。
下藤　将太	(小6)	山口	僕たちのために、たくさんの楽しいことやおもしろいことを体験させてくださり、本当にありがとうございました。僕は特に、自然の木の中に入って秘密基地を作ったり、ブランコをしたのがとても思い出に残っています。このイベントに参加したのは初めてだったけど、たくさんの体験をしてとても良い思い出をつくることができました。これからも、お体に気を付けて、お仕事頑張って下さい。本当にありがとうございました！
今村　安里	(小2)	熊本	わたしは、はのきょうせいをしていました。きょうせいをがんばり、はならびはよくなりましたが、つぎはむしばになってしましました。むしばのちりょうもがんばり、はがよくなったので、とてもうれしかったです。いつもはをなおしてくれてありがとう！
西山　歩那	(中2)	福岡	私は少し前まで電動歯ブラシを使っていました。そのせいで、歯ぐきが下がっていたり、よく血が出たりすると思っていました。どうしたらいいのか歯医者さんに質問したところ「やわらかい歯ブラシで歯ぐきの根元をみがいても、歯ぐきは下がらないし、血が出ているのもみがけている証拠だから安心してね」と丁寧に教えてくださいました。おかげで安心してしっかりみがくことができています。ありがとうございました。
橋本　知紘	(小1)	東京	森につれていってくれてありがとう。
井原　大智	(小4)	福岡	ぼくたちのために協力してくれてありがとうございます。ききんの森、とてもたのしかったです。とくに川がきれいでおどろきました。いつも歯をきれいにしてくれて、ありがとうございます。
井原　彩良	(小3)	福岡	たのしい森につれてってくれてありがとうございます。まるたきり、たのしかったです。きょうりょくしてくれてありがとうございます。
渡部　宥誠	(小1)	福岡	中学生になったら、はいしゃさんにいきます。よろしくおねがいします。
藤原　智晴	(小2)	大阪	いつも歯のけんさや歯をきれいにして、虫歯にならないようにしてくれてありがとうございます。
前田　都杏	(中2)	福岡	口の健康をいつも守ってくれてありがとうございます。学校の歯科検診で診てもらい、私の歯が健康で安心しました。そして、歯の磨き方もあらためて教えてもらい、磨き残しがあることに気づきました。これからも定期的に歯医者さんで診てもらい、歯を大切にします。

第32回 夢みるこどもキャンペーン

わたしのかなえたい夢 作文★絵コンクール

応募総数 1,915 点（作文 1,645 点・270 点）

入賞作品

絵の部



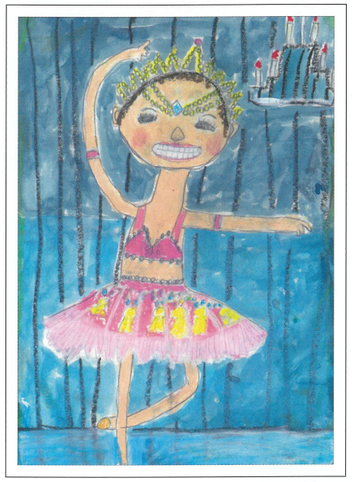
最優秀賞

下藤 将太さん
山口
山口市立さくら小学校
6年（入賞当時）



世界の平和

世界のいろいろな人々が仲良く平和になるようにと願いを込めました。地球を中心にして、その周りを世界の人々が優しく手をつなぎ合って、みんなの平等、平和を表しました。ぼくは、世界が戦争のない平和な世の中に、一秒でも早くなるように願い続けています。



優秀賞

今村 安里さん
熊本
熊本市立飽田東小学校
2年（入賞当時）

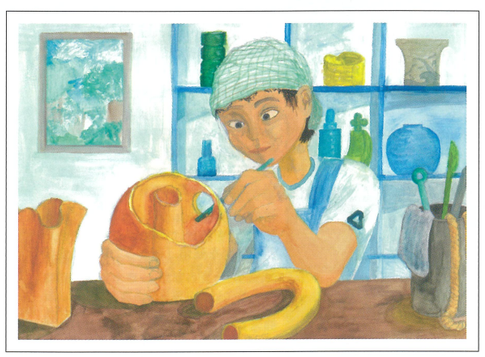
バレエをしているわたし



優秀賞

日野 梨莉香さん
福岡
福岡市立壱岐中学校
1年（入賞当時）

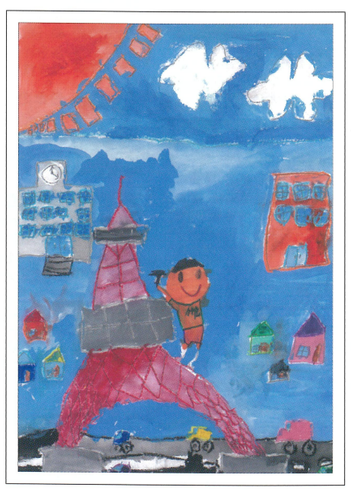
人生に彩りを



優秀賞

西山 歩那さん
福岡
福岡雙葉中学校
2年（入賞当時）

陶器で四次元構造を再現したい



優秀賞

橋本 知紘さん
東京
国分寺市立第二小学校
1年（入賞当時）

だいくになりたい



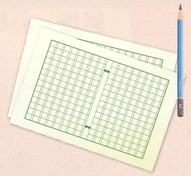
作文の部



最優秀賞

岩坂 新史さん
和歌山
和歌山市立山東小学校
2年（入賞当時）

いっしょにおにごっこがしたいな



理事長特別賞

岩坂 心尽さん
和歌山
和歌山市立山東小学校
6年（入賞当時）

病気が治ったら、味見をよろしくね

優秀賞

土見 奏良さん
熊本
熊本市立力合小学校
5年（入賞当時）

一隅を照らす医者になるために

優秀賞

照井 優人さん
福岡
福岡市立多々良中学校
2年（入賞当時）

パタゴニアの化石ハンター



いっしょにおにごっこがしたいな

和歌山県 山東小二年 岩坂 新史

ぼくのいもうとは五さいです。言葉をしゃべることはできません。すわることも立つこともできません。ごはんは、おなかにつくったチューブから入っていてロからはほぼたべません。

ぼくのいもうとは、「かつのうしょう」という頭の中のしわがないびょうきです。しわがないので五さいになってもできないことがいっぱいあります。赤ちゃんみたいでかわいいです。このびょうきをなおすくすりはありません。だから、いもうとはたぶん今みたいなかんじで大人になるんだと思います。それはちょっとさびしいです。ぼくは、いもうとと会話をしたいです。名前もよばれてみたいです。夜のぞう木林にもいっしょにいってクワガタをつかまえたいです。小学校にもいっしょにあるいていきたいです。おにごっこもしたいです。でもびょう気にきくくすりが今ないので、とてもむずかしいことかもしれません。

だからぼくはしょう来いもうとのためにくすりを作りたいです。いもうとのびょうきもなおしたいし、おなじようなびょうきの人もたすけたいからです。びょう気とたたかう子のきょうだいのねがいもかなえられるとおもいます。

このゆめをかなえるために、ぼくは、来年からあるりかをがんばりたいです。くすりの研究んもするのでさんすうもがんばりたいです。ぼくといもうとのみ来は、ぼくがあきらめなければかえられるとしんじていきます。



≪絵の部 20 名≫

※学年は入賞当時

	氏名	都府県名	学校名	学年	題名
最優秀賞	下藤 将太	山口	山口市立さくら小学校	6年	世界の平和
優秀賞（4名）	今村 安里	熊本	熊本市立飽田東小学校	2年	バレエをしているわたし
	日野梨莉香	福岡	福岡市立壱岐中学校	1年	人生に彩りを
	西山 歩那	福岡	福岡雙葉中学校	2年	陶器で四次元構造を再現したい
	橋本 知紘	東京	国分寺市立第二小学校	1年	だいくになりたい
特選（4名）	井原 大智	福岡	福岡市立小笹小学校	4年	自由になりたい
	渡部 宥誠	福岡	福岡市立愛宕浜小学校	1年	ひをけしているぼく
	藤原 智晴	大阪	池田市立秦野小学校	2年	建築家
	前田 都杏	福岡	福岡市立日佐中学校	2年	小さくなって冒険したい
入選（11名）	森 皇次朗	山口	周南市立徳山小学校	4年	生き物が平和にくらせる世界
	清水 詩花	鹿児島	鹿児島市立瀬々串小学校	4年	スポットライトをあびておよぐわたし
	井原 彩良	福岡	福岡市立小笹小学校	2年	ぶたいでバレエたのしいな
	細原 伊純	大阪	池田市立石橋小学校	2年	オリンピック
	白水 あみ	福岡	福岡市立草ヶ江小学校	1年	にぎやかな犬の町
	丹原 楓	兵庫	神戸市立有瀬小学校	4年	火事ですか？救急ですか？
	外川 莉音	福岡	福岡市立西新小学校	4年	新しい惑星や星を見つけたい‼
	福永 玲羽	熊本	熊本市立飽田東小学校	3年	わたしのカラフルな夢
	小池 睦	東京	東京都豊島区立要小学校	2年	メジャーリーグ
	山下 美月	福岡	福岡市立日佐中学校	1年	こんな画家になりたい
	長谷川碧生	東京	国分寺市立第二小学校	3年	びようしになってみんなをえがおにしたい

≪作文の部 13 名≫

※学年は入賞当時

	氏名	都府県名	学校名	学年	題名
最優秀賞	岩坂 新史	和歌山	和歌山市立山東小学校	2年	いっしょにおにごっこがしたいな
理事長特別賞	岩坂 心尽	和歌山	和歌山市立山東小学校	6年	病気が治ったら、味見をよろしくね
優秀賞（2名）	土見 奏良	熊本	熊本市立力合小学校	5年	一隅を照らす医者になるために
	照井 優人	福岡	福岡市立多々良中学校	2年	パタゴニアの化石ハンター
特選（5名）	田中 結人	兵庫	姫路市立広畑第二小学校	4年	ぼくとししまい
	三原 一眞	福岡	筑紫野市立二日市小学校	2年	ペットボトルキャップ千こ集めるぞ
	江藤 晴琉	大分	大分市立判田小学校	6年	戦争のない世界になりますように
	若狭 早	愛媛	愛媛大学教育学部附属小学校	2年	何才でも楽しめる
	野村 空叶	福岡	リンデンホールスクール小学部	2年	たく山のありがとう
入選（4名）	五反田陽太郎	熊本	熊本市立東野中学校	2年	人を支えること
	田中 響人	兵庫	姫路市立広畑第二小学校	6年	未来のぼく
	日髙 鈴音	福岡	福岡市立香椎第一中学校	1年	沢山の動物を救いたい
	米山 蓮	香川	多度津町立豊原小学校	3年	ぼくのしょう来のゆめ



夢の実現イベント

1995年▼2026年

これまでの夢みるこどもキャンペーン



イメージキャラクター
はミング・はっクン


第1回



第2回


第5回


第6回


第21回


第10回


第30回



第19回


第32回


第24回

第13回 2007.8
夢と希望をメロディーに乗せて ～こども音楽祭～
こどもたちの歌の合唱、盲学校生の太鼓演奏、居合道などで交流を深めた。また、こどもたちとアグネス・チャン理事が福岡西方沖地震で被災した玄界島も訪問した。

第14回 2008.8
地球を守るために『こども隊』出動
地球環境保護をテーマに「環境こどもサミット」を開き、佐賀県内の国有林に「夢みるこども基金の森」を開設することや「環境こども新聞」の発行を決めた。

第15回 2009.8
松林の中で環境音楽祭
福岡市と佐賀県唐津市で開催。福岡市中心部の公園などの清掃活動後、唐津市・虹の松原国有林で「環境音楽祭」を開催。唐津市内の4高校のブラスバンド演奏などで盛り上がった。

第16回 2010.8
「夢みるこども基金の森」開設と「命」をテーマにしたイベント
佐賀県・脊振山系に「夢みるこども基金の森」を開設。翌日は福岡市内で「命の現場をみつめて」をテーマにホスピス病棟などの慰問をした。

第17回 2011.7
東日本大震災被災地と結ぶ絆 ～こどもシンポジウム～
宮城県女川町の中学生4人と教師を招き、「こどもシンポジウム」を開催。震災への対応や、新エネルギーなどについて話し合い「こども宣言」として発表した。2011年末に3頭目の盲導犬を寄贈した。

第7回 2001.8
バリアフリーの社会を作ろう
こどもシンポジウムを開催。バリアフリーについての意見を小泉首相や行政機関に届けた。また、九州盲導犬協会へ盲導犬1頭を寄贈した。

第8回 2002.8
世界のこども達と交流
福岡市・ベイサイドプレイス博多で開催。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流を行った。食事のチケット代を留学生に寄付した。

第9回 2003.8
日本の心をイラクの子供達へ
日本古来の遊具(竹とんぼ、コマなど)やバッチワーク作りをした。教材費を添えてイラクのこども達に贈った。

第10回 2004.8
こども達が結ぶ10年の夢
福岡市で開催。1～10回までのイベントに参加したこどもたちが基金の「10年のあゆみ」を振り返り巨大な貼り絵を作った。盲導犬の歯科検診も行った。

第11回 2005.8
キャンペーンのふる里で新潟・山古志、福岡・玄界島の友と交流
地震で被災した新潟と福岡のこどもたちを熊本県阿蘇に招待して交流。ホームスティなどを通じて友情を深めた。

第12回 2006.7
いつか笑いがモノを言う ～人生は笑顔から～
絵本の読み聞かせやマジックショーなどを行った。ドイツで心臓移植手術を受ける少女のために募金の応援をし、基金からも寄付金を贈った。

第1回 1995.7
阿蘇こども出会いの里
熊本県阿蘇に阪神淡路大震災で両親を亡くしたこどもたちを招き交流した。

第2回 1996.7
阿蘇こどもみどり村
熊本県阿蘇で開催。筋ジストロフィーの少年バンドを招き、アグネス・チャン基金理事とジョイントコンサートなどを行った。

第3回 1997.7
世界のこどもと手をつなごう
バングラデシュ・カラムディ村から教師と子供3人を招き「夢みるこども基金学校」の建設資金を贈った。

第4回 1998.7
夢の放送局
福岡市・キャナルシティ博多にて「夢の放送局」を設け、こども達がそれぞれの夢と音楽を発信。「夢みるこども基金学校」の募金も行った。

第5回 1999.8
ケーキがつなぐ友情の輪
熊本県南関町で大きなケーキ作りに挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。第1回のイベントのこどもたちも参加した。

第6回 2000.8
アフリカの大地に根付けこども達の願い
福岡県宇美町の農家で開催。内戦で苦しむスーダンへ食物の種子を収穫し、現地へ送った。

第18回 2012.7
夢と宇宙と森と
佐賀市三瀬村にある、かやぶき屋根の「やまびこ交流館」で星の観察会、蚊帳での宿泊を体験。「夢みるこども基金の森」で林業体験、秘密基地作りを通して自然を学んだ。

第19回 2013.7
東日本大震災被災地と絆を強く ～石碑建立応援プロジェクト～
宮城県女川町の「いのちの石碑建立プロジェクト」を応援する街頭募金を行い、防災についてのシンポジウムを開いた。「夢みるこども基金の森」では自然観察などを楽しんだ。

第20回 2014.8
祝成人　夢みるこども基金 新たな旅立ち
20年記念イベントを開催。過去のイベントに参加したOB・OGたちも参加し「夢」の巨大貼り絵制作や新進気鋭の作曲家の講演・ミニコンサート、「こども意識調査」の発表などを行った。前夜祭では「夢みるこども基金の森」でトランペットの生演奏、記念植樹をした。

第21回 2015.7
日本とバングラデシュの夢と絆の架け橋
夢みるこども基金の援助で2000年バングラデシュに開校した「夢みるこども基金学校」から副校長と中学生5人がイベントに参加。「合同イベント」は両国のこどもたちの悲願だった。

第22回 2016.7
大地震について学び支え合う ～被災地のこどもたち集結～
阪神淡路、東日本、熊本の被災地のこどもたちが集結。大地震について学び、助け合うことなどを誓った。

第22回 2016.7
大地震について学び支え合う ～被災地のこどもたち集結～
阪神淡路、東日本、熊本の被災地のこどもたちが集結。大地震について学び、助け合うことなどを誓った。

第23回 2017.7
夢を叶えるこどもたち ～羽ばたけ未来へ～
23年間の基金の活動の中で、こどもたちがどのように成長し夢を叶えたか、夢に向かって努力しているか、などを「先輩」たちが語った。その後中学生も、現在追いかけている夢を発表した。

第24回 2018.7
耳の不自由な人のために 聴導犬を育てたい
小学生の作文をメインテーマに長野県から聴導犬2頭を招いて犬のトレーニングを見学。盲導犬も加わり「触れ合いコーナー」も開かれ募金も行った。

第25回 2019.8
新時代の基金が目指すもの
過去のイベントに参加した3人の代表が基金との思い出などを語り、今後の基金のあり方などについて提案をした。ラーメン作りも行った。

第26回 2020.7
イベント中止・盲導犬を寄贈
新型コロナウイルスの感染拡大で夏のイベントは中止となった。協力歯科医院の先生方から基金に寄せられた浄財を形にするために、九州盲導犬協会に4頭目の盲導犬「はっくん4号」を贈った。

第27回 2021.8
イベント中止・3団体に助成金を支援
新型コロナウイルスの感染拡大で夏のイベントは中止となった。協力歯科医院の先生方から基金に寄せられた浄財を形にするために、熊本県益城町のこども地域食堂「はなえみ食堂」、宮城県女川町の「女川1000年後のいのちを守る会」、福岡市城南区の「福岡大学病院・小児病棟」の3団体に助成金各50万円を贈った。

第28回 2022.3
イベント中止・2団体に助成金を支援
新型コロナウイルスの感染拡大でイベントは中止となった。協力歯科医院の先生方から基金に寄せられた浄財を形にするために、認定NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト「うみとそらのおうち」へ助成金50万円、バングラデシュの「夢みるこども基金学校」へ助成金30万円を贈った。

第29回 2023.3
みんなで作ろう『緑の地球』
新型コロナウイルスの影響で4年ぶりのイベント開催となった。"地球環境保護"をテーマに「夢みるこども基金の森」での植樹や福岡市西区今津海岸の清掃などを通して環境問題について学んだ。

第30回 2024.3
夢みるこども基金30年の思い
「夢みるこども基金の森」での自然体験活動、ヒノキの箸作りなどの工作、ロボット製作、肥後ちょんかけごま体験などを行い参加者同士が交流を深めた。また、基金の森では森林保全についても学んだ。

第31回 2025.3
自然の恵み、災害について学ぼう
福岡県朝倉市を訪れ九州北部豪雨災害体験者の講話や三連水車・山田堰の見学、農業体験などを通して自然の恵みや災害について学んだ。また、食品サンプル作りや科学ワークショップなどを行い、参加者同士が交流を深めた。

第32回 2026.3
森の探検と化石の秘密を調べよう
「夢みるこども基金の森」での体験活動を通じて自然の大切さを学んだ。また、こどもの作品をもとに化石発掘にも挑戦。土を掘り進めながら太古の生きものへの興味を深めた。

令和8年度 定期理事会報告

令和8年度の定期理事会を、5月17日（日）にふくふくプラザ（福岡市中央区）401会議室にて開催いたしました。



日頃より基金の活動に温かいご理解とご協力を賜り、こどもたちの夢を支える取り組みを継続できておりますことに、協力歯科医院の皆さまへ心より感謝申し上げます。日々の診療の中で金属冠回収にご協力いただき、変わらず基金を支えてくださっていることは、私たちの活動の大きな力となっています。

当日は、役員人事、実行委員の委嘱、規約改正案について審議し、今年度の体制および運営方針を確認いたしました。今年度は、常任理事・理事に複数名の新任をお迎えするとともに、当基金のOBである大学生の緒方太郎氏にも新たに参画いただき、より充実した体制で事業を進めていくことを共有いたしました。多様な専門性と若い世代の視点が加わることで、こどもたちの未来を支える活動を一層深めてまいります。

続いて、令和7年度の活動報告が事務局より行われました。昨年度も多くの歯科医院から金属冠による寄付を賜り、その積み重ねが、こどもたちの未来の夢を後押しするイベント開催へとつながったことが共有されました。協力歯科医院の皆さまのご支援が、こどもたちの「やってみたい」「挑戦したい」という思いを支える確かな力となっており、イベントに参加した保護者の方からも温かい声が届いています。

会計決算については顧問税理士より、監査報告については監事より説明があり、いずれも適正に処理されていることが確認されました。基金の運営は健全に推移しており、皆さまからお預かりした大切な寄付を、責任をもってこどもたちのために活用していることを、ここにご報告申し上げます。

最後に、令和8年度の事業計画案および予算案について協議し、いずれも承認されました。今年度も、こどもたちの夢を応援する事業を着実に進めてまいります。協力歯科医院の皆さまの継続したご支援に感謝申し上げますとともに、今後もこれまでと変わらず、真摯に、そして前向きに活動を進めてまいります。

人事 ※敬称略、50音順

理事長		中原　淳一	元読売新聞記者、東海旅客鉄道㈱勤務
常任理事	▽再任	植木とみ子	元福岡市教育長、ユーテラス合同会社代表社員
（50音順）	▽新任	田中　理絵	西南学院大学人間科学部教授
		中澤　剛	元防衛省陸将補、㈱セブンイレブンジャパン勤務
	▽再任	中原　淳一	（前記）
		古市　悟	元読売新聞西部本社編集局部長、元スポーツ報知西部本社取締役編集部長
	▽新任	三原　怜美	夢みるこども基金OB・OG会会長、歯科医師、歯学博士、小児歯科専門医
理事	▽新任	緒方　太郎	夢みるこども基金OB、東京科学大学工学院機械系学士3年
（50音順）	▽再任	緒方　亮一	日立グローバルライフソリューションズ㈱　法人営業部 関東支店勤務
	▽新任	岡部　憲和	夢みるこども基金OB・OG会副会長、理学博士
	▽新任	直江　美雪	なおえ歯科 院長
	▽新任	中山　祐二	㈱福岡放送勤務
		納富　昌子	事業構想大学院大学客員教授、RKB毎日放送㈱エグゼクティブ・アドバイザー
		森山日出夫	九州大学名誉教授
監事		長田　行生	元日本通運㈱常務執行役員・九州ブロック地域総括福岡支店長
（50音順）	▽再任	森　博己	森博己税理士事務所所長
顧問弁護士		古賀　和孝	古賀・花島法律事務所所長、元日本弁護士連合会副会長
顧問税理士		吉田　雅俊	吉田雅俊税務会計事務所所長、元西南学院常任監事、梅光学院監事、学校法人福岡女学院監事
顧問	▽再任	八尋　晋策	元読売新聞西部本社論説委員・経済部長
参与		古川　洋	元㈱福岡放送専務取締役
事務局長		古市　悟	（前記）
事務局長代行	▽新任	三原　怜美	（前記）

夢みるこどもキャンペーン 夢実現プロジェクトの流れ

1 作文・絵の募集（7月中旬～9月中旬）
毎年7月15日～9月15日まで「夢」をテーマに作文と絵を募集します。

2 審査（10月中旬）
理事・役員たちによる厳選な審査。

3 「こども会議」開催（12月）
対面・オンラインのハイブリッド形式

4 夢の実現イベント開催（春休み）
作文・絵の上位入賞者を福岡市などで開催する夢の実現イベントにご招待

ご協力頂いている歯科医院数（都道府県別）

福岡県	235件	大分県	29件	宮城県	13件	長野県	10件	島根県	4件	鳥取県	1件
東京都	138件	兵庫県	29件	大阪府	13件	群馬県	8件	福井県	4件	富山県	1件
神奈川県	42件	熊本県	27件	青森県	12件	栃木県	8件	徳島県	4件		
埼玉県	36件	佐賀県	24件	沖縄県	12件	岡山県	7件	滋賀県	4件		
鹿児島県	35件	福島県	22件	香川県	12件	愛媛県	6件	奈良県	3件		
千葉県	31件	宮崎県	19件	静岡県	11件	山形県	5件	京都府	3件		
長崎県	31件	新潟県	17件	三重県	10件	山梨県	5件	和歌山県	1件		
北海道	31件	広島県	15件	茨城県	10件	石川県	5件	秋田県	1件		
山口県	30件	愛知県	15件	岩手県	10件	岐阜県	4件	高知県	1件		

全国合計 994件
令和8年9月1日現在

新規ご協力歯科医院
- 愛医科歯科クリニック(愛知県名古屋市)
- なおえ歯科(福岡県筑紫野市)

夢みるこどもキャンペーン・協力歯科医院登録のお願い

夢みるこどもキャンペーンの詳細は、**ホームページ**をご覧ください。

＊ ホームページからのお申し込みはコチラ

PC スマートフォン　https://www.yumemirukodomo.jp　夢みるこども基金 検索

携帯電話 QRコードから

TEL 基金事務局 ☎092-400-0005

＊FAXでのお申し込みはコチラ

住所	〒
医院名	ふりがな
院長名	ふりがな
TEL	（　　）　　－
FAX	（　　）　　－

＊ご登録を頂きましたら、事務局から回収箱などをお送り致します。　＊登録費、年会費はございません。
＊定期回収は毎年秋ですが、補綴金属は随時受け付けています。少量でも結構です。

※金属の回収方法は裏表紙に掲載しております。



ご登録FAX番号▶ **FAX:092-400-0339**
※必要事項を記入のうえ、右のキリトリ線から切り取りFAXをお送りください。

キリトリ線



イメージキャラクター
はミング・はっクン

夢みるこどもキャンペーンの流れ

歯科医院
（患者様同意）や
個人の方が
不要になった金属冠を寄付
回収は無料です

→

集まった金属冠を
金属塊に再生後換金

→

換金された
リサイクル益金は
こどもたちの夢の実現
被災地や福祉の支援
海外支援に役立ちます

10月と11月が金属冠定期回収月間です

ご入会について

協力歯科医院の**お申し込みは随時受け付け**ています。15ページの登録用紙を切り取り、FAXにて送信してください。HPからもご登録いただけます。**登録費、年会費はございません。**
ご入会頂くと、直ちにポスター、ポリ容器をお送りします。金属冠を貯めていただき、基金事務局までお送りください。

金属冠は随時受付中

※送料は基金負担で回収いたします！

金属冠の回収は年間を通して受け付けていますが、特に**10月と11月を定期回収月間**としています。

少量しか貯まっていなくてもかまいませんので、
（基金事務局 092-400-0005）
へ電話してください。集荷申込はFAXでも可能です。
（事務局 FAX 092-400-0339）
歯科医院名、お電話番号、集荷希望日（翌々日以降）をご記載下さい。折り返しご連絡致します。

国税局の指導の下運営しています

夢みるこども基金は金属の回収を正確、適正に行うために、金属冠は基金に直接送って頂いています。基金は設立時から国税局の指導を受けながら業務を進めており、協力歯科医院に対しては毎年度「夢みるこども基金だより」と一緒に決算書などを送付しています。金属冠を送って頂いた歯科医院などについては、その都度受領証と感謝状を送り、基金備え付けの帳簿に受け入れ年月日、重量などを細かく記録しています。課税関係などで問題が生じた時にも対応出来るようになっていますのでご連絡ください。

編集後記

第32回を迎えた夢みるこども基金は、これまで大きな事故もなく、こどもたちの夢を応援する事業を続けてくることができました。これはひとえに、日頃よりご協力くださる皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

しかしながら、今年の「基金の森」でのイベントにおいて、参加者のお子様が右手首を負傷されるという事態が発生いたしました。運営としても前例のない事故対応に戸惑う場面がありましたが、看護師スタッフが帯同していたこともあり、応急処置を施したうえで、救急搬送へとつなぐことができました。その後、お子様が順調に回復されたと伺い、関係者一同ほっと胸をなでおろしております。

今回の出来事を通じて、基金の森という自然環境ならではの「携帯電話の電波が届きにくい」「救急車の到着に時間を要する」といった特性を、これまで以上に真剣に受け止める必要があると痛感いたしました。

夢みるこども基金のコンセプトは、「こどもたちの夢を応援し、心に残る体験を届ける」ことです。学校では味わえない多様な体験を提供しており、その中でも自然の中で自由に遊べる「夢みる基金の森」は特に人気の高いプログラムです。こどもたちが森を駆け回り、木に登り、自然を全身で楽しむ姿は、見守る私たちにとっても大きな喜びです。

ただし、その豊かな体験の裏側には、いつも危険が隣り合わせであることを心に留めておく必要があります。こどもたちの夢を応援する組織として、何よりも優先すべきは『こどもたちの安全』です。今後は安全管理体制を改めて見直し、体験の価値を損なうことなく、より安全にイベントを実施できるよう、最大限努めてまいります。

最後になりますが、金属相場高騰の厳しい状況下においても変わらずご支援くださっている協力歯科医院の皆様には、心より御礼申し上げます。皆様のご支援が、確かにこどもたちの夢につながっております。その実感をお届けできるよう、今後も活動に励んでまいります。引き続き温かいご支援を賜れますと幸いです。

（夢みるこども基金OG・常任理事　三原 怜美）

